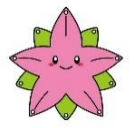


かしこく やさしく たくましく 笑顔いっぱい



みゆきっ子

令和6年10月2日 発行者：由井 薫

【いじめゼロへの取組：企画委員会】



9月のいじめゼロ強調月間の取組 特集号 ～いじめをしない・負けない・許さない～

《いじめゼロ集会を実施しました》

9月は、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、全教職員が「いじめは絶対に許さない」という共通認識のもと、様々な取組を実施しています。いじめゼロ集会では、企画委員会が中心となって学校全体に「いじめゼロ」の大切さを伝えることができました。

★児童を主体とした、いじめ根絶活動 ～自分たちで考え、実践することができました～

☺思いやり標語の紹介

全校生が書いた標語から、各学年ごとに企画委員が、素敵だと思う標語を選びました。選ばれた各学年の代表者は、大きな拍手をもらってとても嬉しそうでした。選ばれた標語は、掲示しますのでぜひご覧ください。



☺SNSトラブルに関する劇

LINE等のSNSに関するトラブルを学校生活で起こりうる場面の中で取り上げ、企画委員が事前LINE画面を作ってくれました。それを全校生で視聴して、何が悪かったのか話し合いました。とてもよく考えられたLINEの設定でした。役になりきっての読み方もすばらしかったです。



☺いじめに関する読み聞かせ

タナカヒロシさんの著者である「これっていじめ？」という絵本を読み聞かせしてくれました。何気ない事がいじめにつながる事がわかるお話でした。いじめのない御幸小学校にしていましようという、願いがこめられています。



☺各委員会での取組

各委員会では、委員会活動の際に、自分たちに何かできることはないか考えました。保健委員会では、昇降口に「ぽかぽかポスト」を置いて、心が温かくなるぽかぽか言葉を募集しています。図書委員会では、「図書委員おすすめの本」として、いじめゼロ強調月間にちなんだ本を、図書室の前に並べていました。いじめゼロのために、みんなで考えたという、プロセスが心の成長につながっていると思います。



☺企画委員長からのメッセージ

普段の生活の中で、何気なく友達に言っている一言やしていることが、相手にとっては嫌なことで、それがいじめにつながっているかもしれません。相手にとる態度や言葉づかいに気を付けて生活することで、いじめがなくなると思います。今回の取組で考えたことを忘れずに、楽しく学校生活が送れるよう生活の一つ一つを見直してみましょう。

★思いやり標語の作成と掲示～企画委員が選んで発表した標語です～

自分だけでなく、学級や学校の友達が、安心して楽しく生活できるように、一人一人がいじめゼロに向けて頑張りたいことや伝えたいことを標語にして掲示しました。

- ・「ありがとう」 やさしくなれる あいことば (1年 W・Yさん)
- ・どうしたの いつでもはなして こまりごと (2年 H・Kさん)
- ・ぼくはもつ いじめをなくす つよい意志 (3年 O・Rさん)
- ・だいじょうぶ? いじめをなくす 合い言葉 (4年 M・Aさん)
- ・小さくても いじめはいじめ 見のがさない (5年 H・Mさん)
- ・ふやそうよ みんなの笑顔^{えがお} ひとことで (6年 K・Tさん)

皆さんの標語のように、いじめゼロで過ごしたり、思いやりの気持ちを持ったりしてこれからも楽しく笑顔で過ごしていきましょう。

《そのほかの取組について》

★道徳の授業（いじめに関する内容）

いじめに関する内容について話し合いながら、今までの自分の考え方や行動について振り返り、今後のよりよい行動について実践への意欲を高めました。

★いじめゼロリボンシールの配付

名札に、黄色い「いじめゼロリボンシール」を貼って、一人一人が「いじめをしない・負けない・許さない」気持ちを大切に行動できるよう生活しています。

★いじめのない学校を目指して

宇都宮市教育委員会から送付されたポスターを掲示し、「いじめのない学校にしよう」と呼びかけています。

ほかほか言葉があふれる学校にしていきたいと思います。



★いじめゼロ強調月間スローガン掲示

9月1日から、各教室の入り口や後ろや側面に掲示して、全児童に呼びかけ、いじめゼロに対する意識を高めています。



★いじめアンケート調査の実施

毎日の生活の中で、いじめられたことやいじめを見たことがあるかなど、全校生にアンケートを実施し、必要に応じて担任や学校全体で対応しています。

《児童指導主任 八木澤 学先生から》

9月は、「いじめゼロ・しない・負けない・ゆるさない」のスローガンをもとに一致団結して、いじめをなくすためにできることを学校の全員で考えた9月となりました。中でも、一人一人が「思いやり標語」を考えることで、「いじめゼロ」のために自分ができることを考えることができました。本当に大切なことは、「いじめゼロ」を他人事ではなく、自分の事として捉えることです。学校・家庭・地域が連携して、「いじめゼロ」を目指していきましょう。